

会 議 録

会 議 の 名 称	第5回弘前城跡整備指導委員会
開 催 年 月 日	平成28年 3月29日 (火)
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時00分 から 15時00分まで
開 催 場 所	弘前市立弘前図書館2階視聴覚室
議 長 等 の 氏 名	長谷川成一 (弘前大学名誉教授)
出 席 者	清藤哲夫、関根達人、田中哲雄、福井敏隆、麓和善
欠 席 者	千田嘉博
事 務 局 職 員 の 名 職 氏 名	(弘前市都市環境部公園緑地課) 公園緑地課長兼弘前城整備活用推進室長・古川勝、同課長補佐・小嶋修造、弘前城整備活用推進室兼スマートシティ推進室総括主幹・神雅昭、弘前城整備活用推進室総括主査・鶴巻秀樹、同室主査・横山幸男、同室主査・笹森康司、同室主事・今野沙貴子 (記録) (弘前市教育委員会文化財課) 文化財課長・三上敏彦、同課長補佐・工藤雅人、同課文化財保護係長・小石川透、同課埋蔵文化財係長・岩井浩介、同係主事・工藤麻衣、同係主事・東海林心
会 議 の 議 題	①ガイダンス施設 (二の丸利活用施設) について ②本丸南馬出し石段の整備について
会 議 結 果	① 平成27年度の確認調査では、遺構復元整備をするのに十分な情報が得られなかったため、平成28年度も調査を継続する必要がある。 ② 「本丸南馬出し石段」について、斜面上部を石段に、斜面下部を豆砂利舗装の階段に整備する方針という事務局の報告があった。委員会からは、近世に石段が存在していたかどうかについては課題であるので、再度史料を精査しておくこと、次回委員会時に「馬出し石段」を現地確認する時間を設けることといった内容の指導があった。
会 議 資 料 の 名 称	① 弘前城跡二の丸発掘調査成果 ② 弘前城本丸南馬出し石段発掘調査成果 ③ 平成23年度整備 北の郭南西坂
会 議 内 容  ( 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、	① ガイダンス施設 (二の丸利活用施設) について (事務局) ・平成27年度は、二の丸の地下遺構の確認調査を実施した。ガイダンス施設 (利活用施設) 建設予定地においては、幕末の明確な遺構は確認されなかった。遺構復元整備のために掘削

結 論 等 )

したトレンチ内では、近世の遺構として、馬場を構成する小土塁・硬化面・溝・砂層が確認された。一方、御宝蔵跡と馬場に伴う御高覧所跡・馬繫跡については、明確な遺構を確認できなかった。27年度だけでは、史跡整備をするのに十分な情報を得られなかったため、28年度も調査を継続する。また、28年度にはガイダンス施設（利活用施設）の実施設計にも着手する。

(委員会)

- ・平成28年度の調査では、馬場に伴う小土塁の伸びと御宝蔵跡の把握に努めるように。
- ・ガイダンス施設（利活用施設）建設予定地内に、近世の遺構が存在しないことを再確認すること。
- ・近代に二の丸にあった料亭・派出所等の外観が写る古写真を確認するように。

②本丸南馬出し石段の整備について

(事務局)「本丸南馬出し石段」の改修については、平成21年度『史跡津軽氏城跡弘前城跡整備計画』に明記されている。「馬出し石段」は、本丸の南側に付随する小郭から西の郭へ下りる通路である。現況は、通路南側に当たる斜面上部に石段が構築されており、途中で西側に曲がる曲がり角から斜面下はコンクリート階段となっていた。改修に先立ち、平成25年度に当該箇所を発掘調査を行っている。成果については、以下のとおりである。

- ・斜面上部の石段に使用されている石材には、凝灰岩質のものが含まれている。鯖石産の石である可能性が高いと考える。
- ・石段において、石材と石材の間にモルタルが埋め込まれている。このことから、近代以降に手が加えられていることが分かる。
- ・発掘調査において、斜面下部のコンクリート階段下に、大型の輝石安山岩を含む黄褐色土を検出した。この土について、明確な近世の城道とは断定できなかった。
- ・近世の絵図から、この通路は築城期には設けられておらず、その後元禄年間までには成立したことが分かる。だが、近世に石段が構築されていたとは確認されない。大正4年(1915)の新聞記事に、「石の階段」という記述が見られる。
- ・「馬出し石段」については、発掘調査で検出した土層は掘り込まないようにして階段を復旧したい。

	<p>(委員会)</p> <p>近世の史料に石段の存在を認められないということだが、史料のみを根拠に断定するのは危険である。近世の絵図には、石段を「坂道」の表現に簡略化して描いている可能性もあるのではないか。石段の石材に、近世の痕跡は残っていなかったのか。近代の「石の階段」設置は、近世の石段の補修であった可能性もあるのではないか。</p> <p>(事務局)</p> <p>石段部分は、再び石段として整備する方針である。コンクリート階段部分は、豆砂利舗装の階段として整備する。</p> <p>(委員会)</p> <p>近世の石段の有無については、再度史料を精査しておくこと。また、次回の委員会時に、「馬出し石段」を現地確認する時間を設けてほしい。</p>
<p>その他必要事項</p>	<p>・会議の公開、非公開…非公開</p>